## 令和２年度前期選抜における作文の「テーマ（題）」、及び出題の趣旨、評価の観点ならびに解答例について

### １　作文の「テーマ（題）」

**次の文章を読んで、「あなたはどのような高校生活を送り、将来どのような人物になりたいと思っているか」について、四〇〇字程度で述べなさい。**

人がどんな物語を見て感動するか。分析は難しいし、人によっても異なるが、例えばこんな展開に胸を熱くするのではないか。「困難にある人々が力を合わせ、問題や不利な状況を打開する」物語。

『忠臣蔵』が浮かぶ。[1]藩を取りつぶされた[2]浪士が力を合わせ、宿敵を討つ。農民と侍が非道な野武士に挑む『七人の侍』もそうだろう。

困難、協力、打開の物語が現実として展開されている。熱狂し応援の声をからすのだろう。ラグビーW杯。日本は十三日のスコットランド戦で勝利し、念願のベスト８入りを果たした。快挙である。

思えば、日本ラグビーの歴史とは[3]古豪に挑んではあえなくはじき飛ばされる歴史だったかもしれない。W杯の最多失点は一九九五年大会で日本がニュージーランドに敗れた「１７―１４５」。開幕前の通算成績で言えば対スコットランドは一勝十敗。対アイルランドは九敗。あの物語の構造でいえば、これ以上、困難な状況はあるまい。

その困難に選手が力を合わせ、ぶつかり、乗り越えていく。目に浮かぶのはスコットランド戦後半の耐えに耐えたディフェンスであり、転倒間際も仲間を信じて投じるパスである。

台風 19 号によって困難に直面する人がいる。それ以外にも数知れぬ困難と闘う人がいる。日本ラグビーの物語がどれだけ大勢の人を励ましているか。二十日、南アフリカ戦。物語は終わらない。

注・[1]藩　　江戸時代、大名が支配した領地。
　・[2]浪士　　仕える主君を持たない武士。
　・[3]古豪　　経験が豊富で強い力を追っている人。

（中日新聞　令和元年十月十六日「中日春秋」）

（中日新聞著作物使用【許諾番号】　20200210-23975）

### ２　出題の趣旨

課題文及びテーマについては、次の理由から設定した。

今世紀、AI や IoT の浸透により急激な社会的な変化が進むとされ、我々は予測不可能な困難に直面することが多々あると考えられている。受検者には、高校生活を通じ、変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え、連携・協働しながら持続可能な社会の創り手として未来社会を生きてほしいと考える。

以上のねらいをふまえ、受検者の入学後の学習・生活に対する姿勢をみたい。

## ３　評価の観点

次の（１）～（４）の観点から総合的に評価する。

（１）意欲・主体性

テーマに対して意欲的、主体的に書かれているか。

（２）読解力

課題文の趣旨が正しく読み取れているか。

（３）理解・思考力

テーマを理解し論理的にわかりやすく書かれているか。

（４）表現力

適切な表現で作文の基本をわきまえて書いてあるか。

## 4　解答例

ラグビーW杯が昨年日本で開催され、日本は南アフリカに破れはしたが、史上初のベスト8入りを果たした。最多失点を記録した国が強豪国に勝つという「困難にある人々が力を合わせ、問題や不利な状況を打開する」物語が、日本中を感動の渦に巻き込み、人々に勇気を与えた。台風19号の被災地の人々はもちろん、私も大きな感動と勇気をもらった。

一方、被災地の復旧の様子に自分が勇気をもらっていることにも気づいた。報道される復旧の様子を見ると「私も頑張ろう」という気持ちになる。このことから、仲間を信じて勇気を与えあうことが大切だと感じた。自分の困難に立ち向かう姿勢が周囲を勇気づけ、辛い時には周囲の姿勢が自分を勇気づける。勇気の与えあいによって、これから先に待ち受ける困難を解決していけるのではないだろうか。

私も貴校に入学し、様々な活動の中で仲間を信じ、協力していくことで、周囲の人々と勇気を与えあって困難を解決していける大人になりたい。（文字数四〇六字）